

やまなし自然首都圏構想研究会 二拠点居住推進部会 第4回ワーケーションワーキンググループ議事録

日時：令和3年3月10日（水）14:30～16:00

場所：山梨県庁防災新館 303・304会議室（テレビ会議）

◆出席者：【座長】

丸山 裕貴 東京大学未来ビジョン研究センター 受託研究員

【委員】※50音順（市町村は建制順）

青柳 文人 山梨県旅館ホテル生活衛生同業組合 副理事長

佐藤 優 （公社）やまなし観光推進機構 観光産業支援部長

田中 敦 山梨大学生命環境学部 地域社会システム学科 学科長
観光政策科学特別コース 教授

浅川 啓治 北杜市役所 観光課 課長 小林 晋
代理 企画課

土屋 正和 笛吹市役所 観光商工課 主査 山形 信寛
代理 （一社）笛吹市観光物産連盟 事務局長

望月 昌也 身延町役場 観光課 副主幹

朝比奈 伸次 富士河口湖町役場 観光課 係長

【庁内メンバー】

リニア交通局 地域創生・人口対策課長、森林環境部 森林環境総務課 総括課長補佐、産業労働部 労政雇用課長、観光文化部 観光資源課 総括課長補佐、農政部 担い手・農地対策課長

【オブザーバー】※50音順

若杉 遼 （株）JTB 甲府支店 支店長 大川正勝
代理 営業課

北辻 巧多郎 （株）LIFULL 地方創生推進部 LivingAnywhereCommons グループ 企画・営業 WorkingAnywhere プラットホーム構想担当

小林 宏至 （株）日本旅行甲府支店 支店長

山口 春菜 （株）パソナ JOB HUB ソーシャルイノベーション部 ワーケーションプロデューサー

【事務局】

リニア未来創造・推進課長

◆会議次第：1 開 会

2 議 事 （85分）

○ワーケーション推進にかかるとりまとめについて

3 閉 会

○議事

【意見交換① これまでの議論のとりまとめについて】

田中委員

- ・ まずはワーケーションの関連で、すでに着手していること、今後取り組んでいくこと等について、手短かにポイントを皆でまず共有した方が、議論が進むのではないかと。
- ・ 各市町村、そのあと県からお話を聞けるとありがたい。

丸山座長

- ・ 田中委員から発言のあったとおり、当ワーケーションワーキンググループが始まって約半年が過ぎたというところで、この半年の進捗や、半年経って見えてきたこと等について、各自治体からお伺いしたい。

小林委員代理 浅川氏

- ・ 企画課の担当であり、この半年の進捗等について詳しい話ができない状況なので、他の方からお話をいただければありがたい。

望月委員

- ・ 町としては、9月から、サテライトオフィスの誘致に関して、観光課ではなく違う部署にはなるが、事業を進めている。
- ・ ワケーションについては、このワーキンググループに参加させていただいているということもあり、下部温泉郷の方で何かできることがないかということで、町としての予算づけは今のところないが、今後の動きに合わせて、何か取り組めることがあれば、協力していきたいと考えている。

丸山座長

- ・ サテライトオフィスの整備を進めているとのことだったが、具体的に、どのような形で進められているかお伺いしたい。

望月委員

- ・ 地域の課題を整理する中で、どんな困っていることがあるのかといったところを洗い出して、それに興味を持っていただける企業がどんなところがあるかといったマッチングのところを今進めているようである。

丸山座長

- ・ 企業は地元企業の方とのマッチングといったところか、県外含めてといったところか。

望月委員

- ・ 詳しい話はわからないが、東京圏内、関東圏、そちらの方から誘致ができればといったことで進めていくようである。

朝比奈委員

- ・ このワーキンググループについては、第1回目の10月から参加しているが、富士河口湖町としても、町としての予算づけとか取り組みが特に今のところはないが、やはりこういったコロナ禍において、やっぱりワーケーションというものがだんだん普及してきているなということを感じている。やっぱり、東京圏からすぐ来られる、すぐ帰れるという場合のコストも安いということから、確かにやさしい。また今後さらにそういった民間企業からの問い合わせ等が出てくるとは思うが、そういった中で、町として、何か協力できるかということを考えていければと思う。

丸山座長

- ・ 北辻オブザーバーからもコメントをいただいているが、コロナ禍においてすでに企業の誘致、ワーケーションであったり、二拠点居住であったり、そのようなところが成功している自治体が、もしいらっしゃれば、情報共有いただけるとありがたいが、各自自治体の方、いかがか。
- ・ ないようであれば、県から、現在の進捗をお伺いできればと思う。

リニア未来創造・推進課長

- ・ リニア未来創造・推進課が、ワーケーションや二拠点居住の議論を進めるとともに、積極的なPRを行うという中で、ポータルサイトを3月8日に開設したところ。このサイトには双方向性があり、順次情報発信するとともに、当課に直接問い合わせができる機能もある。これ以外にも、SNSを活用したPR、マスコミを通じたPR、県外向けのPR等に取り組んでいる。
- ・ 来年度は、補助率4分の3で上限750万円の補助金を設け、本県で実証実験をしていただけるスタートアップ企業を誘致して参るべく取り組んでいきたい。

地域創生・人口対策課長

- ・ 当課は資料3にもあるとおり、まち、ひと、しかけと、あらゆるところで補正予算の新規事業ということを打ち出している。
- ・ 6月補正予算については、すでにご承知の方もいらっしゃるかもしれないが、幅広くプロモーション活動を行うということの中で、例えば東京FMで「デュアルでルルル」というラジオ番組があり、これは日曜日の朝8時半から8時55分の25分間の放送だが、3月まで合計30回放送を予定しており、東京圏のかなり多くの方々にも、二拠

点居住、移住等の情報をご理解いただいているのではないかと考えている。あわせて、移住雑誌「TURNS」と連携し、冊子に記事を掲載している。

- ・ 9月補正予算については、サテライトオフィスの整備をするためには当然お金が必要であるため、市町村に対する助成という形で、1ヶ所当たり上限2000万円、総額1億円という、かなり大規模の予算を投入させていただいている。すでに、3市から申請があり、順調に執行している。来年度へ繰り越す予算になっており、来年度もまたお使いいただける。
- ・ あわせて、実際に東京圏の企業の方に二拠点居住なり、最終的には移住という形で来ていただければ困るということで、その企業の方々に対するニーズ調査について、9月補正予算を使って実施しているところ。結果は年度末ということで、まだまだとまっていないが、あわせて、田中委員にもご協力いただき、企業向けの説明会やセミナーも実施している。
- ・ 現地ツアーも実施しようと考えていたが、二度目の緊急事態宣言の発出ということではなかなか実現に至っておらず、来年度当初予算の中で実施して参りたい。
- ・ 当初予算については、例えばサテライトオフィス等のハード整備をしても、まず興味関心を持ってもらうところから、具体的な訪問滞在、最終的な二拠点居住、移住というところに結びつかなければいけないということの中で、ハード施設で核となる人材が必要となった場合に、専門の方を派遣し、支援させていただき予算も計上。
- ・ あわせて、市町村の方や、地域の民間の方々、例えば、NPO法人、組長さん、区長さん等、いろいろな方々が移住された方をご支援いただいております、そういった方々をまとめて移住コンシェルジュチームと呼んでいるが、移住コンシェルジュチームに対する助成をさせていただき中で、取り組みの活性化をしていただくための予算も計上。
- ・ 続いて、プロモーション活動については、今年度も実施しているが、やはり来年度も強化する必要があるため、東京はもちろん、大阪、名古屋にも、積極的なイベントを展開して参りたい。
- ・ ガイドブックのようなものを作成するとともに、今のご時世としては対面のセミナーではなかなか難しいため、オンラインセミナーも行って参りたいということで考えている。
- ・ あわせてラジオについても、東京FMでも非常に好評を博しているため、引き続き行って参りたい。
- ・ 最後に、やはりワーケーションについては、企業の費用的な負担が大変だということがあり、宿泊、移動、体験等の費用に対して助成をさせていただきたいと考えている。
- ・ 長期コースと短期コースと2つを考えており、長期コースは1ヶ月以上、短期コースは1週間以内の期間で、長期コースについては1社当たり100万円、短期コースは1社当たり25万円の助成をさせていただきたいと考えている。

- ・ あわせて、やはり最終的には企業に来ていただかなければ先に進まないため、その部分について民間事業者のノウハウ等を活用させていただく中で、例えば県内のサテライトオフィスや空き家等の情報を収集して発信することや、県や市町村の支援制度等の情報提供を企業に行うことも考えている。
- ・ これらと並行して、本県への企業移転や二拠点居住等に興味がある企業に対して、最新情報に基づいて、随時、調査していくことも考えている。
- ・ あわせて、今年度はできなかったが、テレワーク等の体験をしていただくことに対して支援をして参りたい。
- ・ このほか、東京事務所内に二拠点居住移住推進センターを設置し、4月から稼働する予定だが、そこから直接、東京圏等の企業に営業をかけて、積極的に本県に、誘致して参りたい。

観光資源課 総括課長補佐

- ・ 当課では、ワーケーション導入促進事業費ということで、今年の9月補正ベースで、ワーケーションの導入支援、業務委託に関する予算を取り、全額繰越明許費ということで、令和3年度までの事業ということで実施をしていく。
- ・ 主にハードとソフトに分けて事業展開をするような形になっており、まずハードの方については、ワーケーションモデル事業費補助金ということで、現在主要観光地4地域の方と、県内のキャンプ場の方にワーケーションに取り組むハード制度、環境面の整備を行うこととしている。補助金の上限については、地域で3,000万円を上限として、団体の場合は1団体3,000万円、ホテル旅館の場合は1,000万円という形で、補助率は2分の1ということで実施。
- ・ ソフトの方については、ワーケーション導入支援事業費ということで、ワーケーションの導入に必要となる推進体制の整備、人材育成、体験プログラムの造成実施、企業への情報発信など、各種支援業務を総合的に行うこと、将来的に活用できるマニュアル等を作成するという事で、JTBに委託をしている。
- ・ これらのスケジュールについては、昨年の11月から令和4年の2月までの事業となっており、導入支援の業務を行っていく予定。
- ・ 現在の状況については、支援対象とする4つのモデル地域において、観光関係団体等を中心にワーケーション事業を進めていくということで、概ね調整ができていくような状況である。具体的には、石和温泉郷、下部温泉郷、清里および小海線沿線地域周辺、富士河口湖地域周辺である。
- ・ 補助金については、3月19日を申請期限とさせていただいており、観光関係団体等が地元の宿泊事業者等の意向を確認しながら、整備内容を現在調査、調整をしているという状況。
- ・ 地域によっては差異が多少ある印象ではあるが、概ね順調に進んでいると認識。

森林環境総務課 総括課長補佐

- ・ 当課の事業としては、直接ワーケーションに関わるということではないが、何度か当ワーキンググループで話題になっていた、森林の有する保健休養機能を生かした森林空間の活用等に関連する事業について説明して参りたい。
- ・ 資料3に記載のある9月補正予算の森林セラピー基地づくり事業については、順調に手続きが進んでおり、現在、申請をしておき、審査、認定される流れになっていく。
- ・ 先ほど、やさしいというコンセプトがあったが、高速道路のインターチェンジから非常に近いので、利用しやすい森林セラピー基地になるのではないかと。
- ・ その他、当初予算については、森林内に人気のある山菜の収穫体験も楽しめるような山菜園や散策路を整備し、地域と連携したプロモーションを展開するという事を考えており、モデル地区として、何ヶ所か整備をしていきたい。
- ・ そのこととあわせて、森林や森林資源を生かした新たなビジネスの提案を求めるといった事業も予定しており、山村において、新たな雇用や収入源を生み出すような森林サービス産業を創出して参りたい。
- ・ 当ワーキンググループでも話題になっていたように、やはり自然の中でリフレッシュできる森林空間はいいところであるので、付加価値を高めるような取り組みをして参りたい。

担い手・農地対策課長

- ・ 資料3にワーケーション利用者農作業体験メニュー開発支援事業補助金という事業が記載されているが、これが令和3年度の新規事業として予定しているもの。
- ・ これは市町村が企業等の団体を対象とした農作業体験メニューの開発を支援する事業であり、来年度は補助対象市町村2市町村において、農作業体験を行う圃場を設置して、収穫などの農作業を行っていただき、農作業体験モデルを作成していきたいと考えており、メニューの作成に必要な経費を市町村に補助するような組み立てにしている。
- ・ 地域の特徴ある農作業体験メニューの開発を支援するため、農業技術の専門家として、県の農業振興公社にコーディネーターを依頼し、市町村をサポートしていきたい。
- ・ ぜひ市町村の事業についてご検討、ご協力をお願いできればと思う。
- ・ この事業で農作業体験をしていただくことによって、本県の農業に関心を持っていただき、将来の本県での就農に結びつけていきたい。また、現在の農業関係で労働力が非常に不足しているということもあり、地域の課題、農政の課題として、収穫期などの労働力が不足する時期に、農家へ労働力が提供できるようなことにもつなげていければと考えている。

丸山座長

- ・ 以上の市町村や県の発言を受け、皆様からぜひご意見を賜ればと思う。

- ・ 具体的な取り組みが非常に増えて、私自身、とても楽しみだなというところはまず感想としてある。
- ・ 県の方々にお伺いしたいが、個人でワーケーションを導入されようとされている方向への支援や補助金等のお話があれば、お伺いしたい。

リニア未来創造・推進課長

- ・ 今のところ個人というところでは、まだ具体的になっているものはない。

丸山座長

- ・ 基本的には民間企業の方を対象にして、支援策を作っているということであった。
- ・ 民間の事業者の方に伺いたい、今県が取り組まれている方向やいろいろな施策が、実際に事業されている中で、この部分は非常に的を射ていて助かるなという話や、もっとこういう支援があると、より山梨が選ばれるフックになるのではないかと聞いたお話があればぜひ伺いたい。

田中委員

- ・ 多岐にわたる政策が始まっており、あるいは、始まろうとして、非常にすばらしい。
- ・ 一方で、都心の企業の側からみると、各地域の行政からさまざまな施策が、五月雨式に出ているような状況で、こうした各自治体の施策をまとめるサイトも出現しているが、情報過多で結局どこが良いかも考えづらくなっている印象を受ける。
- ・ この1月2月は非常事態宣言がもう一度発出される中で、企業としては、社員の安全やレピュテーションリスクを考えると、ワーケーション推進の動きが取りにくい状況となっている。
- ・ いろいろな自治体が企業向けの施策を実施しようとしているが、4月は人事や研修等が重なり、企業人事としても非常に忙しい時期であり、このタイミングで行うことに本当に効果があるのかを考える必要がある。
- ・ どうしても自部門の個々の施策に目が向きがちだが、さまざまな施策をトータルでどのようにワーケーション地域としてブランディングするかということが重要。

丸山座長

- ・ 例えば、やさしいワーケーションという一括りに対して、どのように県全体として打ち出して、それが個々の施策にどのように結びついているかといったところは、ぜひディスカッションさせていただきたいと思っているところ。
- ・ 加えて、ターゲットについて、企業だけではなく、企業が今、見動きが取りづらいという局面において、それだけでいいのかというところであったり、例えば他の個人であったり、観光といったものにも目をつけていくといったお話もあるかと思う。

佐藤委員

- ・ レピュテーションリスク等のことを考えると、今がいいのかというのは確かにあるが、今のうちに宣伝をして、刷り込みをしておかないと遅れを取りそうな気もしている。
- ・ 二拠点居住を推進するための前段階としてワーケーションがあるという認識でいたが、とすれば、二拠点居住推進センターの中にワーケーション推進センターというようなものがあってもしかるべきかなと思った。
- ・ 多くの施策を県の方で用意してくださっていて、それを統括して、ちゃんと全部をうまく理解して説明できる専門の人間がいて、アプローチをしていくべきかと思った。
- ・ 私は金融機関出身で、東京地区で新規開拓ばかりやっていて、企業への飛び込み訪問を当然のようにしている。
- ・ 今回のこの施策を見ると、非常に良いものは出ているが、取りに来てくれる人がいないと飛びつけない。そうでなくて、やっぱり売り込むという能動的なことをできる人をこの二拠点居住推進センター内、もしくはワーケーションセンターに置いて、統括官みたいな方がいるような形で進めていくのがよいのではないか。
- ・ 企業のレピュテーションリスクは田中委員の言う通り、今かなというものはあるが、今ちゃんと広報して、「山梨はこうだね」というイメージづけをして、いざ本当に動ける時に動いてもらうような施策をしておくことが必要ではないか。
- ・ コンテンツはいいものを用意してくれているとすごく感じたので、能動性を持ったものが入っていくと、効果的にいけるのではないかと感じた。

地域創生・人口対策課長

- ・ 名称的には二拠点居住推進センターという形になっていて、わかりづらい表現かもしれないが、当然先ほどご質問があったように、二拠点居住の誘致にあたってはワーケーションの体験というのはその前段階で非常に重要と認識している。
- ・ このセンターにおいても、企業に積極的にアプローチする中で、ワーケーションの取り組みに対しても、必要な経費の助成もある、必要な支援制度もあるということも含めて、ぜひ山梨にお越しくささいと、積極的にPRしていきたいと思っている。
- ・ 専門スタッフの必要性というところだが、やはり県職員もいろいろな業務に精通した者もいるが、二拠点居住の誘致ということに関しては、ある意味、緒についたばかりと認識している。ぜひとも民間のノウハウを活用させていただく中で、委託により、県で足りないようなところの部分、企業の情報収集とか、企業へアプローチする仕方だとか、いろいろな部分についてサポートいただきたいと考えている。

佐藤委員

- ・ ぜひそういう形になっていくと、この施策が有効に活用できるのではないかと思う。

山形委員 代理 土屋氏

- ・ 温泉という癒しの場所で働くことで仕事の効率アップとさらに休暇に対するテーマを持ったツアーとか、地域の方達との新しい出会い・体験を見つけていただくために今後どうしていったらいいかということをも具体的なものは出てないが、ニーズがあるかどうかも含め話し合いをしている。
- ・ 今後について、笛吹市の石和温泉郷は、都心からも1時間半というアクセスもあり、温泉と神社仏閣、フルーツやワイナリー等豊富な観光資源が点在。そういったこともニーズの中に含めながら、取り組んでいけたらと考えている。

【意見交換② 各主体が果たすべき基本的役割について】

丸山座長

- ・ 資料2のP5に各主体が果たすべき基本的役割ということで、まとめられているが、過不足等があれば、ぜひお話いただければと思う。
- ・ また、今回ターゲット施策については、民間企業を対象にするものが多いといったところだが、加えて個人であったり、ターゲットに対しての考え方であったりとか、そのあたりも、意見があれば伺いたい。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 前提条件の確認だが、やさしいワーケーションみたいな方向性自体というのは、おおよそ皆さんこれで行こうというところで大丈夫か。

丸山座長

- ・ 私はぜひ賛同したいと思う。

リニア未来創造・推進課長

- ・ 前回、皆さんいろいろご議論していただく中でそういう方向性を示していただいたと認識している。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 1 アイディアを出した側としては、ドキドキするくらい嬉しい。まず感謝申し上げたい。
- ・ やさしいワーケーションという言葉は、抽象度が高い。
- ・ いい言葉ゆえに、何を差し示しているのかがわかりづらいのではないか。だからこ

- そ、何をもってやさしいかということは明示すべきではないかというのが1点目。
- ・ もう1つは、施策の部分に戻ってしまって申し訳ないが、いろいろな施策が来年度実施されるということがわかった。その中で、やさしいワーケーションということにおいて、何が足りないのかがわからなかったのは少し怖い部分。
 - ・ やさしいワーケーションを作るために、あの施策だと何が足りないのかというところの議論がちょっとできてなかったのが、1点怖い部分。これをやれば、やさしいワーケーションというふうにいえるよねという状態に持っていけば、僕らは足りると思うが、そのあたり、もし議論ができればと思う。

丸山座長

- ・ 私の方も気になっているところ。やさしいワーケーションについては今後どのように打ち出していく予定か。
- ・ 「やさしい」は、抽象度が高い言葉で、例えば大きく3つ、金銭と移動時間と何かというような形で、わかりやすくすると、伝わりやすいかと思う。

リニア未来創造・推進課長

- ・ やさしいワーケーションについて、前回のワーキンググループからいただいたところで、今申し上げた令和3年度の4月からの県の施策については、すでにこれまでいろいろな議論をいただいておおむね昨年中にいろいろな組み立てが行われたところ。
- ・ 来年以降の施策の中に、やさしさの視点というのをどうやって入れていくかというのは、課題であると思っている。
- ・ 何をもってやさしいかという点については、具体的に今後の来年度のいろいろな政策の中できちんと打ち出していく形を取らせていただければと思う。

青柳委員

- ・ ターゲットにしている人たちにやさしいワーケーションだけではわからない。
- ・ この資料に盛り込んだところで、ターゲットの人たちはこの資料は見ないので、そこにキャッチーなコピーを入れたほうがいいんじゃないかという意見だったと思う。

丸山座長

- ・ やさしいワーケーションはおそらく、個人に対しては、お金の面であり、移動時間の面であり、また利用のしやすさといった形があると思う。
- ・ わかりやすいように拠点が一覧でまとまっていて、そこでちゃんと働けるような環境が整っていて、行けばストレスフリーで仕事もできるし、滞在もできるということになれば使いやすい。

- ・ 加えて、企業から見たときには、金銭や時間に加えて、企業としての利用のしやすさがポイントになるかと思う。その辺りは先ほどの施策のところでは結構カバーできているかと個人的には思っている。
- ・ まさに打ち出し方がポイントであり、各施策との連携や整合性を整えていって、最後に、ターゲットとなる個人や民間企業の方に届けるときには非常にシンプルにわかりやすく伝えるといったことは、青柳委員のご意見にもあったが、私も注意すべき点であると感じている。

田中委員

- ・ やさしいワーケーションはすごくいいキャッチフレーズだと思う。
- ・ 但しブランディング上、やさしいワーケーションをどのように位置づけるかということを考える必要がある。これまで、利用者の視点や、企業の視点が議論に上がってきたが、家族に対するやさしさ、SDGs の観点からは環境に対するやさしさ、あるいは今まさに山梨県が推移しているグリーン・ゾーン構想のようなやさしさもありうる。
- ・ また、実際にワーケーション事業全体での収益を高めるためには、マーケティングをしっかりと考えていく必要がある。プロモーションを進める際には、個々の施策をどう統合するかということがポイントだと思うし、その中で、サーキュラーエコノミー等の考え方を取り入れることもよいのではないか。

オブザーバー 山口氏

- ・ 田中委員のお話に関連した内容と、今回民間企業をターゲットにするケースが非常に多いのかとお見受けしたので、現状私が関わっている都市部・首都圏の企業の現状を少しだけシェアさせていただければと思う。
- ・ 1点目のやさしいワーケーションについて、北辻オブザーバーと田中委員がおっしゃっていただいたところもそうだと思っているが、地域の住民にとってやさしいのかというところは大前提として必要だなと個人的には思っている。
- ・ 受け入れ側の地域の方々が疲弊してしまうとなかなか持続的にワーケーション、二拠点居住の施策は続いていかないと思っている。そこは観点としては必要と感じた。
- ・ 都市部の企業に営業をかけたに行ったり、お話を聞かせていただく中で、おそらくだが、都市部の企業向けにはやさしいワーケーションというコンセプトはあんまり響かないなと個人的には思っている。
- ・ 企業に対するプロモーションの仕方でも、もちろんコンセプトを作っていくところはマーケティング上、非常に必要なところではあると思うが、企業担当者レベルからすると、やさしいのはわかったが、それはやっぱり従業員にとってどんな価値があってどんなメリットがあって、具体的にどうすれば実現できるのか、どうすれば経

営層を納得させられるのといった本当に具体的な細かい事例や、細かい突破口みたいなところを探している担当者の方が多い。

- ・ 個人向けのプロモーションと企業側のプロモーションは全く別物だと思って考えた方がいいのかなと思っている。
- ・ 企業の今の声の共有だが、弊社が淡路島に本社機能を移転したことがニュースになったこともあり、東京の本社を売却して違うところに移転をしようと思っているという内容のご相談を企業からいただいている。また、3月8日（月）に発表したけど、弊社では、新卒採用する人材について初めから副業 OK にしたり、家業を手伝いながら働くことを認めたりしており、ハイブリッド採用という形で打ち出しているが、こういった関係でも、企業にかなりお声がけいただいている。
- ・ これからの会社員の働き方を柔軟にしていくためには会社の制度、仕組みとして、何が必要なのかという問い合わせが今非常に増えている。
- ・ 先ほど田中委員からもお話のあったように、コロナの昨今の状況というところはあると思うが、おそらくコロナが落ち着いて人の行き来が可能になってきたら、それとの同時多発的に、新しい働き方の制度を解禁する動きや、本社を売却されている企業もあると思うが、他の拠点で仕事をするような動きがかなりスピードアップして入ってくるのではないかと考えている。そのような中で、企業向けに対しては、いかに泥臭く営業できるかというのが一番大切なところではないか。
- ・ 個人向けには、ちょっと映える写真とか、刺さるコンセプト等を作れば、広告、プロモーションが刺さる方はたくさんいらっしゃると思う。
- ・ 企業に関してはいかに通うか、いかに提案書を作り込むか、いかに企業との信頼関係の構築をして行動させるところまでコミットするかということが、生々しい言い方ではあるが、必要なのかなと思っている。

【意見交換③ 推進にあたってのポイント・留意点等について】

丸山座長

- ・ まさに営業は足といったところ。私も、不動産営業をかつてやっていて、非常にわかる。
- ・ 企業に対してはやさしいだけだとあまり響かないというご意見であった。そこで何が生まれるのかという点について、第3回のワーキンググループの資料でも、コンセプトとして価値創造型のワーケーションを目指そうということが示されていたが、まさにそのあたりをいかに伝えられるかといったところがポイントではないか。
- ・ 最後のセクションとして、各施策を来年度進めていくにあたって注意していく点、懸念点等を含めて、こちらで議論させていただければと思う。

労政雇用課長

- ・ 当課では、学生の就職支援や企業への採用支援を実施している。
- ・ 学生の就職動向や企業を選ぶ動向を見ると、最近はコロナの関係で、自然豊かなところで、山梨とかそういう地域が選ばれる傾向にあり、リモートワークができることや働きやすいところ、そういったことをすごく求めている傾向がある。
- ・ やさしさというキーワードを、どこをターゲットするかとあったが、企業の中でも、社員なのか、経営者層なのか、社員の家族とか、そういった切り口も大事かと思う。

丸山座長

- ・ 企業側からも使いやすいといったところがあることがまず大事かと思う。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 私自身の今の仕事が LivingAnywereCommons という、全国で今 13 ヶ所ある多拠点居住だとかワーケーションがまさにできる拠点を運営している会社で、法人に営業をしている部署の人間なので、どんな観点で見ているかという話だが、やはり、1社1社がサテライトオフィスを1個出すというのはちょっと考えづらくなったというのは、結構いろいろな企業が言っている。
- ・ 既存のホテルであったり、ゲストハウスであったり、働き方が自由になって、個人の裁量で出張のように行くという働き方がある種ワーケーションと呼んでいる企業もあれば、私どものような限られた場所だけど、定額でどこでも行けるよというところを使ってもらう企業もいる。
- ・ そうした中で、やはり通信環境もそうだが、そこに行って何ができるか、社員が行った時にどんな価値があるのかという点、まさに価値を気にされるというのは、大きく感じている。
- ・ そのポイントで言うと、山梨県に我々の拠点が2箇所あり、この2つで、やはり気軽に来られるというところもさることながら、誰と会えるかという部分を割と強く言っている。
- ・ ここに来るとこんな人がいるよということを強く言って、その人たちと一緒に実験やってみようとか、この人たちと一緒に新しい暮らし方の実装してみようとか、そういう話になり、その流れで、企業に我々の会員になっていただくことが増えてきている。

丸山座長

- ・ まさにその新しい価値が山梨にあるということが非常に大事という考えであった。

佐藤委員

- ・ 私も民間の人間で、足を運んだ数だけで勝負になる、松下幸之助も名刺の高さで決

めると言っている世界で生きてきた。

- ・ やっぱり今のうちから、年度が改まって予算が実行できる、使えるということであれば早急に二拠点推進センターを稼働させて、本当に靴の底を減らせる営業の人間が泥臭く、その活動をしっかりやっておくことがすごく重要。
- ・ 本当に解禁になった時に山梨県が遅れをとらないように、情報提供をして、「これだけ山梨の人が来たんだから、最初に聞かなきゃね」となるようなことをしておくことが、最終的に結果に結びつくのかなと思う。
- ・ やっぱり泥臭い営業が綺麗事ではなくて必要だなということも、改めて理解した。そこに重点を置いて取り組む中で、そこで聞いた情報からまた必要な政策というのもつくり込めると思う。ぜひそこを怠らないで、しっかりやっていきたいと思う。
- ・ また、私が所属しているやまなし観光推進機構でもワーケーションに関する取り組みを考えているので、実行していきたいと考えている。

丸山座長

- ・ 営業によって関係を培う中で、民間の方のニーズもわかり、施策のブラッシュアップもできるとの意見であった。

オブザーバー 小林氏

- ・ 二拠点居住推進センターについて、業務委託をするのお話があったが、成功報酬にして、いろいろな企業にチャンスを与えて、企業を持ってきたところに報酬を与えるということを考えていくと、もっと広い視野でいろいろな企業のネットワークを使えるのではないかと思った。
- ・ 旅行会社として、このような状況の中ではあるが、個人型のワーケーションの商品を作っていきたいと考えている。昔からの旅行商品があったが、それもすべてウェブ化して、陳列する棚も減らして、商品をなくしている状況の中で、個人型のワーケーション商品を造成できるような支援をいただくと、我々としてもアプローチがしやすいので、ご検討の中に入れていただければと思う。

オブザーバー 山口氏

- ・ 3月7日（日）に、山梨県のワーケーションを発信するイベントをやらせていただいた。約3時間の拘束で、30人強の方にご参加いただいた。
- ・ アンケートを取らせていただいたが、一番魅力に感じているところは何かという質問に対しては、ほぼ皆さんが山梨は行きやすいと答えていらっしやった。
- ・ 山梨県の県内でできるワーケーション施設を少しだけ取りまとめて説明もさせていただいたが、アンケートでは、「こんなにワーケーションできる施設あるんだ。だったら一回行ってみます」というようなことを、皆さん書かれていた。

- ・ 実際に山梨でワーケーションしている方はおそらくたくさんいらっしゃると思うが、この方々のリアルな声を今回のイベントでお聞かせいただき、こういうワーケーションの仕方があるなら、自分も個人でワーケーションできるかもしれないと感じた参加者もいるのではないか。
- ・ 「緊急事態宣言が開けたらすぐ山梨行きます」という形でアンケートに答えてくださった方もたくさんいらっしゃったので、あくまで個人向けのプロモーションの仕方だと思うが、本当に簡易な形かもしれないが、リアルな声と実際のハードの施設の抱き合わせで、どんどん情報発信をしていくという方法もあるのかなということを今回のイベントで感じた。
- ・ 北辻オブザーバーと山梨のワーケーションについてちょっと考えてみようと、今流行りの clubhouse という SNS、これは音声版 Twitter みたいなイメージだが、そこで話をした。その中で、山梨県出身で今東京にいらっしゃる方で、やっぱり山梨に帰りたいが、帰るときの方法がまだイメージできていないという話が出た。
- ・ また、山梨の東京側に住まれている方からすると、東京の八王子が東京にいる山梨出身の人の集まる場所であって、八王子に行けば山梨県の人と会いやすいといったような話もあった。
- ・ もしかしたら八王子に拠点を設けた方が、山梨の人を呼び込むことができるのではないか。
- ・ 本当にリアルな声が、アイデアとか施策に繋がるなというのを、ここ数週間で実感したところ。
- ・ 東京の八重洲にワーケーションセンターとか二拠点居住推進センターの箱を置くのではなくて、八王子の方が効果があるのかもしれない。
- ・ 広告のターゲティングも、東京の丸の内働いている人にターゲティングしていたことが、実は八王子でよく飲む人に広告をターゲットした方がコンバージョンがよかったりする可能性もある。
- ・ 本当に細かい AB テストみたいなのをしていくと、どんどん山梨のファンが積み上がっていくのかなと思った。

丸山座長

- ・ 実際に来られている方の属性を調べたり、個人でもどの辺りをターゲットにしていくかというところは、これからまさに深めていくべきところかと思う。

田中委員

- ・ 国の動きについて、3月17日に、政府の委員会が開かれ、厚労省が示しているテレワークのガイドラインに、ワーケーションという文言が2ヶ所入る予定。年度末までに厚労省のホームページで公表される予定。

- ・ ワークーションについて、労務管理や労災等、グレーゾーンが多く、企業がなかなか制度化しづらかった部分がクリアになる部分が多く期待されている。
- ・ 観光庁としても、新しい旅のスタイルの導入の仕方等について、3月末に公表する予定であり、ぜひ企業側とこれからコンタクトをとる上で、そうした国の動きともリンクしていただければと思う。
- ・ 勝負の時である4月以降に向けて、一体的な推進のために集約するところと、個々の部局が引っ張っていくというところを、どう考えるかが、非常に難しい点でもあるが、成否の大きなキーポイントだと思う。
- ・ いくつかの行政とも仕事をするケースがあるが、ここの軸がしっかりしているところは推進も早いし、周りから見てもわかりやすい。
- ・ 非常に難しい問題なのは十分承知はしているが、ワークーションに関しては、国もいろいろ省庁が関わって進めていくという質を持った事業であり、ぜひ関係部局が一体感をもって、スピードを上げて推進していただきたい。

以上